



# 学び糧に成長を

## 県連協 新指導員学校

県連協主催の第38回新指導員学校は6月4日に県青少年会館で開かれ、県内の採用3年未満の指導員ら54人が参加しました。また、今回は宮古市からオンラインで17人が参加しました。

冒頭に県連協の阿部勝会長が「学童保育の質は指導員の力量、チームの力量で決まる。指導員はよく学び、交流しあうことが必要な仕事。我流に陥らず、常に学び続けることを大事にしてほしい」とあいさつしました。

続いて、嘉村祐之全国連協副会長が「学童保育の歴史と情勢」について講義。保護者がつくり、運動で広がった学童保育が法制化され、現在に至るまでの歴史を解説。最近の情勢として民間企業の参入が増えていることや、指導員の配置基準の参酌化、安全計画策定の義務化などの事例を説明。「安全計画の策定を義務付けても、それを実行する職員は資格のないひとりの大人でもよいとなってしまう」と制度の矛盾点についても指摘しました。

続いて、滝沢市の菓子第一学童クラブの主濱由希子指導員が「指導員の仕事」と題して講義。指導員として大切にしていることとして、子どもの話をよく聞く、職員間での情報共有、保護者との関わりーの3つを大切にしているといい、「学童保育は学ぶことが多い。悩んだり、考えたりすることはたくさんあるがそれが糧になっていく。楽しむことを忘れず、職場の指導員や地域の指導員とも交流し、子どもたちと一緒に成長して行ってほしい」と参加者にメッセージを送りました。



指導員の仕事について講義する主濱由希子指導員

午後はオンラインを含めた7グループに分かれてグループトークをしました。オンラインで結んだ宮古会場では「学童保育の適正規模は何で定められているか?」「子どもたちの出席確認はどのように行っているか」など次々に質問がだされ、世話人が答える形で進み、参加者は熱心に耳を傾けていました。

盛岡市から参加した窓岩伸吾指導員は「教員の経験はあったが、学童についてよく分からない部分があった。先輩の体験談で教員から学童の指導員になった方の話を聞き、同じような悩みを抱えていたことが分かった。グループトークでは他の学童の先生方と交流し、よその学童でも同じようなことに悩みながらも、試行錯誤しながらやっている様子を知ることができて良かった」と話しました。

第58回 全国  
ぜんこくけん  
**学童保育  
研究集会**  
2023年  
11/4(土) 全体会  
11/5(日) 分科会

岩手県から330人の参加を目指します！

1支援の単位につき保護者は複数参加を！

指導員は全員参加を！

各クラブでの呼びかけをお願いします

詳しくはリーフレットまたはホームページをご覧ください

(申し込みは 9月30日 まで)

